

1945-1953年

占領期・琉球諸島
新聞集成

●監修
新崎盛暉

●解説
仲宗根将三(宮古)・大田静男(八重山)・弓削政巳(奄美)

米軍政下における奄美・宮古・八重山
3群島の政治と文化と生活―
離島独自の歩みを地元紙から検証する!

全16巻



不二出版

初期米軍政下の 琉球諸島と新聞事情

新崎盛暉 (沖縄大学名誉教授)

奄美・沖縄・宮古・八重山の四諸島(四群島)は、戦後初期の約八年間、琉球諸島として、共に米軍政下に置かれていた。地上戦による軍事占領の延長として軍政下に置かれた沖縄諸島、一九四五年十二月から米軍政下に置かれることになった宮古・八重山などの先島諸島、翌四六年二月に、鹿児島県から分離されて軍政下に編入された奄美諸島と、その時期は三段階に分かれる。(中略)

米軍は、これら諸島を、奄美・沖縄・宮古・八重山の四群島別に統治していた。したがってこれらの地域は、この時期、社会的事情においてもかなりの地域差があり、政治的文化的諸活動においても独自な歩みをしてきた。こうした地域的独自性を知る貴重な手がかりが、それぞれの地域で発行されていた新聞である。(中略)

戦後、宮古では、早くも四五年十二月に、戦後初の新聞として「みやこ新報」が創刊された。八重山では、四六年一月に、「海南時報」が再刊される。奄美では、日本からの分離後、「奄美タイムス」が創刊され、「南日本新聞大島版」は、「南海日日新聞」として独立した。

沖縄で四五年七月に創刊された「ウルマ新報(後にうるま新報)」は、すでに不二出版から、復刻版が刊行されている。現代史資料としての戦後初期の沖縄の新聞復刻について当初から相談を受け、その解説も書いているわたしは、「うるま新報」のカバーするエリアが、沖縄諸島に限られており、奄美・宮古・八重山については、それぞれの地域の地元紙を復刻する必要があることを強調してきた。あれから十年。ようやく体制が整い、仲宗根将二、大田静男、弓削政巳という、長年それぞれの地域研究で成果を積み重ねて来た三人の研究者の解説を得て、「宮古民友新聞」・「みやこ新報」・「南西新報」・「海南時報」・「奄美タイムス」の五紙の復刻版が刊行されることになった。喜ばしい限りである。琉球・沖縄史のみならず、日本現代史研究に対して寄与するところは少なくないと思う。

(第一巻「監修の辞」より抜粋)

『占領期・琉球諸島新聞集成』収録新聞一覧

新聞名	発行地	発行人	収録期間	収録号数
宮古民友新聞	平良市	瀬名波栄	1946年7月10日～50年2月24日	611号～929号
みやこ新報	平良市	新城松雄	1945年12月1日～50年6月22日	1号～680号
南西新報	石垣市	富川盛正	1945年9月6日～51年12月28日	1号～423号
海南時報	石垣市	浦添為貴	1946年6月2日～51年12月29日	1155号～2030号
奄美タイムス	名瀬市	小林正秀	1946年6月10日～51年8月31日	11号～843号
奄美タイムス	名瀬市	村田正義	1951年9月1日～53年10月27日	1号～644号

(*復刻版刊行に際して、全国の公共機関等にて新聞資料の探索・調査をいたしました。まだ多くの欠号・欠頁があります。ご了承下さい。)

民友新聞

宮古民友新聞社
宮古市平良町西
電話 二二二

本紙は、宮古島の発展を期し、民衆の生活の向上を期し、新時代の精神を鼓舞することを目的として創刊された。本紙の発行は、宮古島の文化の発展に貢献するものである。

みやこ新報

宮古自動車商會
伊志嶺玄良

本紙は、宮古島の発展を期し、民衆の生活の向上を期し、新時代の精神を鼓舞することを目的として創刊された。本紙の発行は、宮古島の文化の発展に貢献するものである。

新時代洋服

各種洋服・新調・修理
及ビ改造・裏返し
安価デ・スピード仕立
各種ミシン機ノ修理
高等学校男子部、女子部指定
店 開業十周年記念大奉仕
西邊大通り
合服ノ 比嘉洋服店
用意ノ (中修者入用)

アルパニヤの 加入をめぐり論争展開

米案をソ聯蹴る

対米及ソ聯の加入をめぐり、アルパニヤの加入をめぐり論争が展開されている。米案をソ聯蹴るという動きが、国際情勢に大きな影響を及ぼしている。

国民の信頼薄し

マ元帥六月占領報告

国民の信頼が薄れているという指摘が、政治界で聞かれている。マ元帥の六月占領報告に対する国民の反応が、政府の対応に大きな影響を及ぼしている。

共産黨で 宣傳藝術學校

共産黨で宣傳藝術學校を設立し、文化の発展に貢献する。この学校は、共産黨の宣傳活動を支援し、藝術の発展を促進する目的で設立された。

七月二十五日ヨリ診療開始

小児科 近ク入院
内科 備 設 毛 完
新 城 医 院
台湾醫學士 新城惠洋

マッカーサー元帥の 歸國米上院が要請

（ワシントン廿八日電）米上院議員は、マッカーサー元帥の歸國を要請する決議案を提出した。この決議案は、元帥の歸國を要請するものとして、米上院議員の多くが賛成した。元帥の歸國は、米国民の間で大きな関心事となっており、この決議案の提出は、元帥の歸國を促進するものとして、米国民の注目を集めている。

今年はどうか 對日講和

（ワシントン廿八日電）米政府当局者は廿五日、對日講和の進展について、今年中に講和が実現する可能性は低いと見做している。米政府は、對日講和の進展は、米軍の優勢と、日本の経済的困難によるものであると見做している。しかし、今年中に講和が実現する可能性は低いと見做している。

對歐輸出緩和

（ワシントン廿八日電）米政府は、對歐輸出の緩和を決定した。これは、米政府の對歐政策の一環として、對歐輸出の緩和を決定した。これは、米政府の對歐政策の一環として、對歐輸出の緩和を決定した。

南西新報

（本報） 南西新報社 編集長 高橋正 印刷所 高橋印刷所

ソ聯の原子爆弾保有は確実

（パリ廿八日電）フランスの原子力専門家らは、ソ連が原子爆弾を保有していることは確実であると見做している。これは、ソ連の原子力開発の進展によるものであると見做している。

安全保障理事會に 常置委員を會設置

（ワシントン廿八日電）米政府は、安全保障理事會に常置委員を會設置することを決定した。これは、安全保障理事會の機能強化の一環として、常置委員を會設置することを決定した。

入殖豫定地は伊原間

（東京廿八日電）農林省は、入殖豫定地として伊原間を選定した。これは、農林省の入殖政策の一環として、伊原間を選定した。

米泥横行

（東京廿八日電）米泥横行の被害が拡大している。これは、米泥の横行による被害の拡大によるものであると見做している。

奄美タイムズ

（本報） 奄美タイムズ社 編集長 小林正 印刷所 小林印刷所

廢刊の辞

小林正 廢刊の辞 奄美タイムズは、この日をもって廢刊される。これは、奄美タイムズ社の経営状況によるものであると見做している。

賠償物資 中國にも機械類

（上海廿八日電）中国は、賠償物資として機械類を受け取った。これは、賠償物資の受け取りによるものであると見做している。

態度變更か？ 對日講和

（東京廿八日電）對日講和の態度が變更しているとの見方がある。これは、對日講和の態度の變更によるものであると見做している。

入殖豫定地は伊原間

（東京廿八日電）農林省は、入殖豫定地として伊原間を選定した。これは、農林省の入殖政策の一環として、伊原間を選定した。

開拓問題に聞

（東京廿八日電）開拓問題に関する議論が盛んに行われている。これは、開拓問題に関する議論の盛んによるものであると見做している。

竹富實業校 昨日入学式舉行

（東京廿八日電）竹富實業校の入学式が昨日行われた。これは、竹富實業校の入学式によるものであると見做している。

八重山農林高等學校

（東京廿八日電）八重山農林高等學校の設置が決定した。これは、八重山農林高等學校の設置によるものであると見做している。

奄美タイムズ

（本報） 奄美タイムズ社 編集長 小林正 印刷所 小林印刷所

民衆解放のため

小林正 民衆解放のため 奄美タイムズは、民衆解放のために奮闘する。これは、民衆解放のための奮闘によるものであると見做している。

賠償物資 中國にも機械類

（上海廿八日電）中国は、賠償物資として機械類を受け取った。これは、賠償物資の受け取りによるものであると見做している。

態度變更か？ 對日講和

（東京廿八日電）對日講和の態度が變更しているとの見方がある。これは、對日講和の態度の變更によるものであると見做している。

入殖豫定地は伊原間

（東京廿八日電）農林省は、入殖豫定地として伊原間を選定した。これは、農林省の入殖政策の一環として、伊原間を選定した。

開拓問題に聞

（東京廿八日電）開拓問題に関する議論が盛んに行われている。これは、開拓問題に関する議論の盛んによるものであると見做している。

竹富實業校 昨日入学式舉行

（東京廿八日電）竹富實業校の入学式が昨日行われた。これは、竹富實業校の入学式によるものであると見做している。

八重山農林高等學校

（東京廿八日電）八重山農林高等學校の設置が決定した。これは、八重山農林高等學校の設置によるものであると見做している。

奄美タイムズ

（本報） 奄美タイムズ社 編集長 小林正 印刷所 小林印刷所

憲法制定の意義

小林正 憲法制定の意義 憲法制定は、国家の発展のために重要な意義がある。これは、憲法制定の意義によるものであると見做している。

賠償物資 中國にも機械類

（上海廿八日電）中国は、賠償物資として機械類を受け取った。これは、賠償物資の受け取りによるものであると見做している。

態度變更か？ 對日講和

（東京廿八日電）對日講和の態度が變更しているとの見方がある。これは、對日講和の態度の變更によるものであると見做している。

入殖豫定地は伊原間

（東京廿八日電）農林省は、入殖豫定地として伊原間を選定した。これは、農林省の入殖政策の一環として、伊原間を選定した。

開拓問題に聞

（東京廿八日電）開拓問題に関する議論が盛んに行われている。これは、開拓問題に関する議論の盛んによるものであると見做している。

竹富實業校 昨日入学式舉行

（東京廿八日電）竹富實業校の入学式が昨日行われた。これは、竹富實業校の入学式によるものであると見做している。

八重山農林高等學校

（東京廿八日電）八重山農林高等學校の設置が決定した。これは、八重山農林高等學校の設置によるものであると見做している。



憲法制定の意義の著者

奄美タイムズ創刊の辞

小林正 奄美タイムズ創刊の辞 奄美タイムズは、奄美の発展のために創刊された。これは、奄美の発展のための創刊によるものであると見做している。

祝創刊

祝創刊 奄美タイムズ創刊を祝う。これは、奄美タイムズ創刊を祝うによるものであると見做している。

大島食糧會社

大島食糧會社 大島食糧會社の活動報告。これは、大島食糧會社の活動報告によるものであると見做している。

名瀬市農業協同組合

名瀬市農業協同組合 名瀬市農業協同組合の活動報告。これは、名瀬市農業協同組合の活動報告によるものであると見做している。

祝創刊

祝創刊 奄美タイムズ創刊を祝う。これは、奄美タイムズ創刊を祝うによるものであると見做している。

大島食糧會社

大島食糧會社 大島食糧會社の活動報告。これは、大島食糧會社の活動報告によるものであると見做している。

名瀬市農業協同組合

名瀬市農業協同組合 名瀬市農業協同組合の活動報告。これは、名瀬市農業協同組合の活動報告によるものであると見做している。

食糧局大島出張所

食糧局大島出張所 食糧局大島出張所の活動報告。これは、食糧局大島出張所の活動報告によるものであると見做している。

祝創刊

祝創刊 奄美タイムズ創刊を祝う。これは、奄美タイムズ創刊を祝うによるものであると見做している。

大島食糧會社

大島食糧會社 大島食糧會社の活動報告。これは、大島食糧會社の活動報告によるものであると見做している。

敗戦から「島ぐるみ闘争」実現に至る沖縄本島の姿を活写

『うるま新報』→改題『琉球新報』
〔復刻版〕全33巻

全巻完結!

●解説―『うるま新報』(新崎盛暉・丹野喜久子)、『琉球新報』(新崎盛暉)
●体裁―B4判・上製本・総11・492頁
●本体揃価格―924,000円+税(各巻28,800円+税)

うるま新報			琉球新報		
紙名	巻数	原本収録年月	紙名	巻数	原本収録年月
うるま新報	第1巻	1945年7月～47年12月	琉球新報	第1回配本	1952年1月～3月
	第2巻	1948年1月～49年12月		第2回配本	1952年10月～12月
	第3巻	1950年1月～6月		第3回配本	1952年7月～9月
	第4巻	1950年7月～9月		第4回配本	1951年9月～12月
	第5巻	1950年10月～12月		第5回配本	1951年1月～3月
	第6巻	1951年1月～9月		第6回配本	1952年10月～12月
	第7巻	1951年9月～12月		第7回配本	1953年1月～3月
	第8巻	1952年1月～6月		第8回配本	1953年7月～9月
	第9巻	1952年4月～6月		第9回配本	1953年4月～6月
	第10巻	1952年7月～9月		第10回配本	1955年1月～2月
	第11巻	1952年10月～12月		第11回配本	1955年3月～4月
	第12巻	1953年1月～3月		第12回配本	1955年5月～6月
	第13巻	1953年4月～6月		第13回配本	1955年7月～8月
	第14巻	1953年7月～9月		第14回配本	1955年9月～10月
	第15巻	1953年10月～12月		第15回配本	1955年11月～12月
	第16巻	1954年1月～2月		第16回配本	1955年11月～12月
	第17巻	1954年3月～4月		第17回配本	1955年9月～10月
	第18巻	1954年5月～6月		第18回配本	1955年7月～8月
	第19巻	1954年7月～8月		第19回配本	1955年5月～6月
	第20巻	1954年9月～10月		第20回配本	1956年11月～12月
	第21巻	1954年11月～12月		第21回配本	1956年3月～4月
					1956年5月～6月
					1956年7月～8月
					1956年9月～10月
					1956年11月～12月
					1956年11月～12月

紙本 配本

168,000円

84,000円

84,000円

84,000円

84,000円

84,000円

84,000円

84,000円

84,000円

84,000円

奄美大島きょうから再び日本へ
返還協定昨夕調印さる

琉球新報

戸毎に日の丸掲げ
約八年ぶりに鹿兒島縣大島郡に
名瀬中心に祝典行事

祝賀決議案
衆院可決

名瀬中心に祝典行事
更に沖繩返還努力せよ

両院満場一致で承認
更に沖繩返還努力せよ

琉球新報社



●体裁―A4判・上製本・各巻平均450頁
●構成―第1巻 米軍政下沖繩の人民党と社会運動 (1947年～57年)
第2巻 沖繩の非法法共産党資料 (1953年～57年)
第3巻 沖繩非法法共産党と奄美・日本 (1944年～63年)

●編集・解説―加藤哲郎・森宣雄・鳥山淳・国場幸太郎
●本体揃価格―84,000円+税

戦後初期沖繩解放運動資料集
全3巻

●体裁―B4判・上製本・総642頁
●収録内容―「沖繩新民報」
第1号～第236号(1946年1月～53年12月)
「自由沖繩」
第1号～第33号(1945年12月～49年1月)
九州版・関西版

●原本提供―沖繩県立図書館・琉球大学図書館・新崎盛暉
●解説―新崎盛暉
●本体揃価格―48,000円+税

沖繩新民報・自由沖繩
〔復刻版〕全2巻

社告

本紙琉球新報に改題

琉球新報社

本紙は、四十四年七月の日本無条件降参後、琉球島の中心地である那覇に、住民の希望を反映して、自由の精神を以て、新報として創刊された。その以来、島の発展と進歩のために、常に努力を怠らなかつた。今、本紙は、更に島の発展と進歩のために、新報として改題する。これは、島の発展と進歩のために、常に努力を怠らなかつた。今、本紙は、更に島の発展と進歩のために、新報として改題する。

うるま新報

米國保護の下に
將來、獨立、希望か

來訪の米記者團知事(問う)

海外情報
憲章違反
非難
米の海
救済費
住宅建築一般

占領期・琉球諸島新聞集成 全16巻「復刻版概要」

- 収録原紙名—宮古民友新聞・みやこ新報・南西新報・海南時報・奄美タイムス
- 体裁—A4判・上製本
- 総頁数—総約6、140頁
- 監修者—新崎盛暉（沖縄大学名誉教授）〔監修の辞〕は第1巻の巻頭に付す
- 解説者—仲宗根将一（宮古地域解説 第1巻巻頭）
大田静男（八重山地域解説 第4巻巻頭）
弓削政巳（奄美地域解説 第10巻巻頭）
- 原本提供—国立国会図書館・沖縄県立図書館宮古分館・沖縄県立図書館石垣分館・鹿児島県立図書館奄美分館
- 定価—各巻 本体価格1128,000円＋税（全16巻揃価格11448,000円＋税）



復刻版巻数	原紙名	収録原紙発行年月及び号数
第1回配本	宮古民友新聞	1946年7月(611号)～1950年2月(929号) 312頁
第2回配本	みやこ新報①	1945年12月(1号)～1947年12月(327号) 459頁
第3回配本	みやこ新報②	1948年1月(338号)～1950年6月(680号) 423頁
第4回配本	南西新報①	1947年9月(1号)～1949年12月(254号) 474頁
第5回配本	南西新報②	1950年1月(255号)～1951年12月(423号) 330頁
第6回配本	海南時報①	1946年6月(1155号)～1948年6月(1391号) 352頁
第7回配本	海南時報②	1948年7月(1392号)～1949年12月(1568号) 352頁
第8回配本	海南時報③	1950年1月(1569号)～1951年3月(1828号) 394頁
第9回配本	海南時報④	1951年4月(1830号)～1951年12月(2030号) 361頁
第10回配本	奄美タイムス①	1946年6月(11号)～1947年12月(282号) 500頁
第11回配本	奄美タイムス②	1948年1月(283号)～1949年12月(573号) 524頁
第12回配本	奄美タイムス③	1950年1月(574号)～1951年6月(793号) 447頁
第13回配本	奄美タイムス④	1951年7月(794号)～1951年12月(843号+【1号～97号】*) 295頁
第14回配本	奄美タイムス⑤	1952年1月(98号)～1952年6月(243号) 272頁
第15回配本	奄美タイムス⑥	1952年7月(244号)～1952年12月(389号) 290頁
第16回配本	奄美タイムス⑦	1953年1月(391号)～1953年10月(644号) 316頁
2009年度刊行分 本体196,000円＋税		
2008年度刊行分 本体168,000円＋税		
2007年度刊行分 本体84,000円＋税		

*奄美タイムスは843号にて一旦廃刊になるが、経営者が代わり、再度同紙名で1号から再刊された。

●表示価格はすべて税別。

不二出版

T113,00023
東京都文京区向丘1-2-12
電話03-33812-4433
フアクシ03-3812-4464
振替00160-2-94084